

(楳内委員)

3ページの八戸市民大学講座について、今年度の市民大学講座についても各分野の専門家から新たな気づきなど非常に深い学びの機会であったと感じている。ありがとうございます。質問だが、令和7年度の受講者数が3,170人ということだが、この中にオンラインの受講者が含まれているのか、あわせて、受講者数が前年度より減少しているように見受けられるが、オンライン配信はこれまで会場に足を運ぶことが難しかった市民にも学習機会を広げるといふ点で非常に意味のある取組だと感じている。こうした状況を踏まえ、受講者のアンケートをとった結果などから参加がしやすかったとか満足度など把握していたら教えていただきたい。

(社会教育課長)

楳内委員におかれましては、今年度市民大学講座で司会を担当していただき、ありがとうございました。大変評判が良く、話のポイントがまとまっていて聞きやすかったと好評であった。

質問の1点目だが、受講者数3,170人にはオンライン受講者も含まれている。人数の内訳だが、2,949人が実際に会場にお見えになった方である。オンラインの受講者は145人、サテライト会場は、各町村のホールや公民館、5町村で実施したが、受講者は76人であった。オンライン講座は全11講義のうち第5講義と第6講義の2回行った。続いて受講者数が、前年度より減少しているように見える原因は、前年度、テレビ等メディアへの露出が高い方、桐谷広人さんの回の受講者が964人ということで、公会堂の2階も開けて行ったところである。昨年度の受講者数3,451人と比較すると300人ぐらい減っているように見えるが、平均を出すと今年度は1回当たり288人の受講があったということになる。令和6年度の桐谷さんの回を除いた1回当たりの平均は276人、令和5年度は228人で、実は1回当たりの平均を出していくと、徐々に伸びてきていると感じている。

オンライン開催の効果もあり、これまで会場に足を運ぶことが難しかった方や移動時間が確保できない方、公共交通機関がない方、育児や介護、御自身の体調などでお出かけになれなかった方もサテライト会場やオンライン配信で受講できたと大変好評であった。その他に第5講義の代ゼミの鈴川先生は土曜日の開催であったが、児童福祉施設や母子生活支援施設、例えば浩浩学園や小菊荘といった施設にも周知したところ、是非オンラインで視聴したいというお話をいただき、そちらでも開催することができた。参加のしやすさ、満足度など2回の講座で約220人がオンラインを活用できたということは大変大きい経験になったと思っている。お陰様で評判も上々であったのでこれからもいろいろな方に学びの機会を届けられる

ように工夫してまいりたいと考えている。

(佐々木委員)

私からはお礼です。8ページの教育総務課の学校施設開放事業だが、実はこの業務に関しては年度末の人事の入替えの時に、実際に学校で教頭が中心となり団体の受入れであるとか様々な手続きを行っているところが何とかならないかと持ち掛けたところ、教育総務課で大変スピーディーに動いてくださった。昨年度はいつもより少し早く各団体に周知という方法をとっていただいたおかげで、それぞれの教頭が、たった1か月だが年度末にゆとりを持って業務に当たることができた。そして、今回は予約システムというものを導入いただいたということで、本当にありがたい。様々な団体の使い方等で学校は全部見なければならぬが、それでも年度末の教頭の手間が本当に大きく取れたということで、手間と気持ちの負担からいくとこの導入は本当にありがたい。導入していただきありがとうございます。

(教育総務課長)

私たちもやって良かったなど、まだ途中ではあるが、先生たちの負担がすごく大きい点は佐々木委員からもよく聞いていた。平成17年からこの事業を行っているが、なかなか改善するタイミングが計れなかったということが大きい要因だったのかと思っている。仕組み自体も予約システムというデジタルを活用したものになるので、これまでと少し違った仕組みを来年度から作ることはなるが、最初はクレームとか利用者側からしたら使いにくくなったというところもあるかもしれない。だが、他の公共施設もそのようにやっているところもあるので、そこはなんとか説明をしながら理解していただき、見直しを図りながらうまく運用していきたいと思っている。

(上斗米委員)

予約システムの件だが、私たちも多言語の活動で、この冬も韓国の方をホームステイで受け入れたりして、その報告会を吹上小学校を借りてやらせていただいた。施設を使わせていただくというのは本当に地域のためにもいいなと思っている。

私は理解が薄いですが、予約システムがこのように進んでいるというのは周知している感じなのだろうか。私たちは学校の先生にお聞きして借りている。これを団体や個人で使いたい場合は、予約システムに入って使わせていただく理解でよろしいか。

(教育総務課長)

このシステムの周知については、予算を要求したときに新聞等で大きく取り上げていただいた部分があった。ただ、まだ検討している段階ではあるが、徐々にチラシも配付しながら、

また、ホームページも「これから新しい仕組みになります」ということで掲示はしている。

市民の方々に隔々までというのは難しいが、まず仕組みとして八戸市の電子申請サービスを使用し、団体登録をしなければならない。教育委員会で承認したら予約ができる許可を出すような流れである。まだ来年度の予約は始まっておらず、まずは団体登録が3月1日から受付が始まるので、そちらの準備を進めている。

学校開放については、今後、校庭と体育館、柔剣道場の三つに予約システムを絞ろうかと思っている。これはアンケートをとった結果から、そこが主に使われている施設であったため、システムとして管理するということにしたいと思っている。

単発ではなく、特に子どもたちが使うような、夜19時から21時まで地域でクラブ活動などをしている団体があるかと思うが、そういう方たちや地域の方がバレーボールをやっているとかそういった活動に使ってもらえるような形のシステムになっている。これは今後3月1日以降になると思うが、もう少し周知を図っていきたい。

(根城委員長)

私も学校現場にいた者として、部活動の地域移行という絡みで利用できるのは、小・中学校というのは非常に便利な部分がある。教員のことから考えると、本来の業務とはまた少し違うという考え方もあるかと思う。日本の教員の場合は、なんでも引き受ける、全てというのがあったが、とても今の時代、これからは何でもかんでも先生にとというのはうまくいかなくなってきていると思っているので、そういう点では是非デジタル化できるものはやって、お互いにうまくいくように、それも子どもたち、市民のためになるように前向きに推奨していただければ大変ありがたい。

(楳内委員)

5ページの先人周知事業、7ページの八戸圏域文化財魅力発信事業について、資料をいただいて改めてホームページを見させていただいた。ホームページでの発信をどのような役割として捉え、どういった点を意識して情報発信を行っているのか、お考えをお聞かせいただきたい。

(社会教育課参事)

先人周知事業は、平成18年から始まり、八戸の政治・経済、文学など各分野で活躍した先人の業績をパネルにまとめ、パネル展を開催し、顕彰する事業となっている。

先人パネル自体は、年に1、2回開催している先人パネル展で、一部を公開しているほか、要望があれば貸出しも行っているが、パネル展では期間や紹介できる人数が限られており、パネル展に足を運んだ方しか見ることができないことから、八戸市民のみならず市外の方々も、常時、先人の業績へのアクセスをやすくするためホームページを整備している。

例えば、ある先人について調べたい方がインターネットで検索した際に、このページがヒットしたり、先人の名前でパネルの内容自体がヒットしたりする。最初の入口として使っていただければと考えている。

より詳しく知りたい方もいて、時々社会教育課に問合せが寄せられることもある。その際は参考にした文献や本についてお知らせしている。八戸市の図書館にある本であれば、そちらを御紹介するという対応をしている。

意識している点は、正確性である。ホームページで常時見ることができ、誤った情報が掲載されていると広まりやすく、定着してしまうおそれがあるため、正確性には注意している。パネルの文章をそのまま掲載しているので、パネル製作の際には十分注意して、正確なパネルになるように作っている。

古くなった情報などが確認された場合、例えば長根リンクについて、パネルを制作した当時には使われていたが、今は営業が終了しているなどの情報が確認された場合は、都度修正を行っている。長根リンクについては、昔の写真と制作した時点での写真を掲載したパネルになっているが、「2019年まで使用されたリンク」というキャプションに付け替えるなど更新を都度行っている。

八戸圏域文化財魅力発信事業については、文化財バトルカードを配布している事業になる。本事業は、八戸圏域に所在する文化財を面的に活用し、文化財の魅力を発信し、文化財そのものに来訪し、文化財に親しむきっかけを作ることを目的としている。文化財バトルカード42種類作成し、文化財がある場所やその付近の訪れやすい場所を訪問してカードを集めることができる、集めるとカードバトルゲームができるという事業となっている。

ホームページの役割は、文化財バトルカード事業の情報を網羅的に掲載し、このホームページを見れば一通り全て分かることを目的に整備している。

八戸圏域であるので、八戸市のみならず、圏域町村の文化財のページへのリンクを用意するなど、全体が分かるように意識して作っている。もう一つ意識している点は、文化財バトルカードの配布が品切れになる時があるので、配布場所の情報をタイムラグなく更新することを心掛けている。

(田畑委員)

9ページの学校給食・食育活動見学会について、体育祭が終わった後に本校から参加した保護者からの意見が私にあった。この見学会に参加していた先生が、給食の時間内に子どもたちに食べ終わらせなければならぬので、食べやすい食事にしてほしいと言っていたという話を耳にした。食育ということで時間の中で食べさせるために、例えば食べやすい柔らかいものにするというのはちょっと違うんじゃないのかなとその時思った。

私が直接聞いた話ではなくそういう報告をもらったということなので、これ以上詳しいことは分からないが、食育というのは非常に成長にとって大切なことだと思うので、こういうことも含め何が大切なのかという点を大人の人達に周知した上でできればいいのかなと意見させていただいた。

(学校教育課長)

食育の周知ということについて、学校教育課としても取り組んでまいりたい。栄養の部分とか、かむ力の問題や柔らかいものだけということにはならないだろうし、様々な御意見をいただきながら食育、子どもたちの健やかな健康だとか、そういうところに向けて検討してまいりたい。御意見がありましたら学校給食グループにもお寄せいただければと思う。

(田畑委員)

ありがとうございます。いろいろ働き方改革というところで非常に先生の働き方も大事なのかなと、協力していきたいなと思っている。何でもかんでも時間ありきの働き方改革ということにはならないようになってほしいなという願いもあったので御意見させていただいた。

10 ページのコミュニティ・スクール推進事業について、予算額 2,100 万円に対して執行額が 950 万円というところで半分以下になっている。こちらはどのようなところにお金を使っているのか見えづらかったので御説明いただきたい。

(教育指導課副参事)

コミュニティ・スクールの主な予算は大きく二つある。一つは、学校運営協議会委員の報酬であり、一人当たり 3,000 円を支給している。もう一つは、実施状況の説明にもあるが地域学校協働活動に協力してくださっている方々へ、今年度からお茶代ということでペットボトル飲料を各校の学校規模に応じて予算を配分していた。資料は 12 月末現在の執行額であり、これから協議会委員の報酬の執行や各学校のお茶代の請求も見込まれ、ここから支払いをするというところでこちらの予算を計上している。

(田畑委員)

予算に対して使う額が少ないと、来年度の予算が減るのかなと心配があった。コミュニティ・スクールは非常に大事な取組だと思っている。連合 P T A でもコミュニティ・スクールに関わる P T A 会長同士の意見交換の場を設けていた。先月行われた時は、吹上小が吹上サポーターという制度を使って、小学校を卒業した保護者を O B として、例えば学校が終わってから愛好会までの時間の見守りの活動に活用したという報告もあった。とても素晴らしいコミュニティ・スクールを活かした仕組みだなと思っていた。そういったところの情報共有がまだまだ不足しているのかなと思う点があるので、是非学校・地域を巻き込んで、ほかの地域でこういういい取組してますよというのを広く周知できれば、もっと推進というところにつながってくるのかなと思っている。今後とも是非よろしく願いたい。

(出貝委員)

活動している中で、今言ったとおり、例えば新井田でこんなことをやってるよというのをなかなか、他のコミュニティ・スクールではどうなのかなというのが意外と広げ合う場がないのかなと今、会長さんと話をしていた。これは校長会とかを活用しながら、もっと他地域のことを知る場というのを設けないといけないと聞いていて感じたところである。

(根城委員長)

せっかくコミュニティ・スクールが立ち上がって、以前とどう変わったのかなというところは興味がある。新しい事業が始まって何年か経っているが、地域との連携、そういった点がなかなか大変かも分からないが、子どもたちのためにできれば大人も参加しながらという形でみんなで育っていくという風な気持ちが必要なのかなと感じているところである。

(松本副委員長)

13 ページの是川縄文館と 21 ページ以降の博物館の文化財事業についてお伺いしたい。

是川縄文の里整備事業が年々進んできていて、非常に期待を寄せている。準備が進んでいることを私たちはこの社会教育委員の会議で伺っているが、もっと広く市民の皆さんにコミュニティ・スクールもそうだが、こういう事業をやっている、そしてここまで進捗状況はどうである、ということを経々半年又は 1 年に 1 回でも市民の皆さんにもっと伝える機会があればいいなと思って、例えば広報のページで特集を組んでいただくとか。

手前味噌で申し訳ないが、電子図書館の特集を広報で組んでいただいて、非常に多くの方に声を掛けていただいた。自分も電子図書館やってみようかなと言ってくださった。私が載っているくらいでもみんなちょっと見て関心を持つので、是非お忙しいかとは思いますが、広報の特集ページをいただいて皆さんに見ていただいたりということをやっていただければありがたい。

同じように博物館がリニューアルしていることを私たちは知っているけれども、案外知られていないと思うこともあるので、こういうことでリニューアルをしなければいけない、そしてリニューアルした暁には、このようにすばらしくなっているので、是非皆さん足を運んでほしい、ということを広報する機会を一層考えていただければありがたいと思う。

私個人としては、縄文館の講座・展示、そして博物館の歴史講座を始め、いろいろ参加させていただいて、いつも楽しく参加して感謝している。いつも本当に企画をありがとうございます。

(博物館長)

広報については、SNS などを使い、これだけ進んでいるとか今は閉まっているけれどもこういうのも見せたいんだよ、ということを出していこうとの話は以前からしているが、まだ実行に移してはいない。一方で昨年の夏の段階で、既にある新聞社さんからお話をいただいて休館中からオープンするまでの間、連載できたらいいねと。こちらから 30~40 本のタイトル案だけは昨年 11 月にお渡ししているが、その後お話がなくて。それが実現すれば皆様に御覧いただけるかなと思っている。

(是川縄文館副館長)

いろいろなイベントに御参加いただきありがとうございます。当館でもホームページや新聞・テレビの取材に対応している。X も、今フォロワーが 1,500 ぐらいになったところである。そういったものも活用しながら、広報については、企画展やイベントをコンスタントに出しているが、整備の状況などについては確かに弱かった部分もあるので、今後広報統計課とも話して、紙面を割けるところがあればいただきながら周知してまいりたい。

(上斗米委員)

(ヒッポファミリークラブとユニリンク (韓国交流団体) のホームステイ交流について紹介。)

(根城委員長)

青森県社会教育委員連絡協議会表彰規程の表彰の範囲について、7 年以上の表彰となっているが、青森市の場合は 6 年までと切っているそうだ。新陳代謝を図るとかいろいろな人材を活用すると。そうすると青森市からの表彰はないということになる。

7 年以上という案に決まりそうになったが、少し待ってくださいと。他の市町村で青森市のようなことがある場合、そこの地区は全く表彰に入っていないことになるため、そこはもっと検討した方がいいのではないかと。地区地区でいろいろな事情があるし、逆になかなか手がなくてずっと何十年もという地区もある。できたらいろいろな方法で、市町村によって年数の期限があるとかそういう調査をしてから決めた方がいいのではないかと提案した。

事務局でもう少し調べてから再度提案する、ということになった。皆様からの御意見があればお聞きしたいと思い、お話しした。会議が終わってからでもいいので、何かあったらお聞かせいただきたい。

このような文言について、いろいろな所で慎重に、令和 3 年に一度改正されているが、できたらせっかくの規約なので長く使えるようなものにしておかないと。その時その時であまり変わることはないようにと感じ、お知らせした。